

(別表第1の3)

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3891000048
法人名	株式会社 新風会
事業所名	グループホーム 秦皇
所在地	愛媛県伊予市中山町中山丑523番地1
自己評価作成日	平成 22年 8月 10日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 ※「介護サービス情報の公表」制度にて、基本情報を公表している場合のみ、ここに記載

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成22年8月31日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

お一人お一人の意向に添った支援を心がけています。  
スタッフは優しく思いやりを持って接しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

グループホーム等を数多く運営している法人の事業所である。運営者が医師であり、特に看取りに対する取り組みは、早い段階から家族との相談を行い最良のケアが提供できるよう方針を共有している。利用者の状態のいい時も優れない時も詳細な報告をする等、家族と利用者が疎遠にならないよう管理者や職員は配慮している。利用者の介護度が徐々に高くなりつつあり、職員が介護に追われる場面も見受けられるが、利用者本位のサービスの提供を全員が心がけ、安心して生活できるような支援がなされている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない		

(別表第1の2)

# 自己評価及び外部評価結果表

## サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- I. 理念に基づく運営
- II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

### 【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。

- 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

### ※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。  
(他に「家族」に限定する項目がある)

- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。

- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。

- チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。  
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

**ホップ 職員みんなで自己評価!**  
**ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!**  
**ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!**  
  
**ーサービス向上への3ステップー**

<b>事業所名</b>	グループホーム秦皇
<b>(ユニット名)</b>	
<b>記入者(管理者)</b>	
<b>氏名</b>	岡田 絹子
<b>評価完了日</b>	平成 22年 8月 10日

(別表第1)

自己評価及び外部評価表

【セル内の改行は、「Altキー」+「Enterキー」です】

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
<b>I.理念に基づく運営</b>				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	<p>(自己評価) 全他の理念は出来ていてフロア内に掲示している。スタッフ間で独自の理念を考え作り掲示している。地域密着サービスの意義を踏まえた理念は作っていない。</p> <p>(外部評価) 法人の理念や事業所の理念が運営者によって作成されており、それに基づいて職員で「私たちの介護理念」を作りあげて実践しているが、作成してから評価を行っていない。</p>	「私たちの介護理念」が作成して3年が経過しているため、評価を行う機会を設け全職員で振り返りを行い、よりよいサービスが提供できるような取り組みを期待したい。
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	<p>(自己評価) 日常的には出来ていないが買い物、散歩などに行き交流する努力をしている。</p> <p>(外部評価) 山間の、集落が点在している地域であるため地域とつきあいが困難ではあるが、地元出身の職員から地域の行事等の情報を得たり、散歩や買い物で外出した際にあいさつを交わす等、利用者が地域の一員として交流ができるよう取り組んでいる。</p>	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	<p>(自己評価) 不十分ではあるが中学生の総合学習の受け入れをしている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	(自己評価) 避難訓練の方法などそこで出た意見をサービス向上に活かしている。	話し合われたり、出された意見を事業所の今後の取り組みに反映するためには、詳細な記録が大切である。記録のとり方や様式等を再考し、運営推進会議を最大限に活かせるよう期待したい。
			(外部評価) 市職員や区長、民生委員、家族、近くの福祉関連会社の社長等に参加してもらい、開催されている。参加者からもよい意見が出ているが、記録が十分とれているとはいえない。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	(自己評価) ケア会議などに参加して情報交換している。	生活保護の担当者が利用者によく面会に来るので、その機会を利用して今後のことについて相談している。また、介護相談員に積極的に入ってもらう等市との連携を深め、要望や相談がしやすい関係が構築されている。
			(外部評価) 生活保護の担当者が利用者によく面会に来るので、その機会を利用して今後のことについて相談している。また、介護相談員に積極的に入ってもらう等市との連携を深め、要望や相談がしやすい関係が構築されている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 職員も理解し、取り組んでいる。しかし、例外的に脳内出血の悪化を防ぎたいという家族の方の要望で車椅子の拘束をしている利用者もいる。	管理をはじめ職員は、身体拘束についてカンファレンス等の機会を利用し知識を深め日々のケアに活かしている。利用者の外出傾向をしっかりと把握しているため、玄関は施錠していない。
			(外部評価) 管理をはじめ職員は、身体拘束についてカンファレンス等の機会を利用し知識を深め日々のケアに活かしている。利用者の外出傾向をしっかりと把握しているため、玄関は施錠していない。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 全職員が注意を払い防止に努めている。虐待の法律について学ぶ機会が少ないが日々職員間で話し合っている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 研修を行ったりして学ぶ機会は持っている。スタッフ間資料を共有している。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 家族の方に不安がないよう十分に説明し、理解してもらえるよう努力している。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 外部者へ表せる機会は設けていないが利用者、家族の方の意見を取り入れ運営に反映させている。  (外部評価) 意見箱を設置したり、面会時に積極的に声かけをし、希望を聞いたりしているが、意見があまり出されることが多いので家族会を開催する等、意見を出しやすい雰囲気作りを心掛けている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 日々の勤務時を含めスタッフの意見に耳を傾け反映させている。二ヶ月に一回のホーム長会議の開催。カンファレンスを月一回行っている。  (外部評価) 管理者は、職員同志が気軽に話合える雰囲気作りを心掛けています。また、法人の管理職が月に1回事業所を訪問し、直接職員と話ができる機会を設けている。管理者からも積極的に職員の意見を聞きとれるよう声かけをしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) 職員個々の努力など勤務状況を把握するよう努力はしている。しかし、更なる職場環境条件の整備に努力が必要と思われる。	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 事業所内で勉強会・研修を行っている。また、外部への研修にも参加している。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価) 見学等を受け入れ、またこちらからも他施設を訪問しネットワーク作りを行い、話をする中で質の向上に取り組んでいる。	
<b>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) 本人の過去現在これからの希望、不安などを聞き、理解するよう努力している。また、内的感情にまで迫れるように傾聴している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 家族の方からも事前調査及びホーム見学などの時、よく聞く機会を作り受け止める努力をしている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 本人が家族と会話している時の様子や本人、家族の話の中で関係性を感じ取るよう努力し良い関係が築けるよう支援をしている。他のサービス利用も含めた対応にまでは至っていない。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 利用者の今までの経験を尊重し、出来る事はして頂き、また一緒に作業したりと支えあう信頼関係をきずいている。しかし、利用者の方と共に何かを共にする、ということが、少なくなっている。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 家族の方には、面会時、電話で近況報告し一緒に本人を支えていくようにしている。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 全員ではないが努力している。なじみの人や場所があり、本人が行きたいと希望する場合、同行訪問している。 認知症の病気進行や馴染みの人や場所の関係で途切れ気味である。  (外部評価) 利用者の思い出の場所や昔住んでいた場所等に、家族の了解を得て行っている。また、目の前のコンビニに特に買い物がなくても行き、店員と世間話をする等新たな馴染みの関係づくりにも取り組んでいる。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 利用者同士の関係は把握している。そのため、その都度関係性を大事にし接している。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 継続的な関わりを必要とする利用者家族の方は現在おられない。	
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 本人の意向は会話の中において、暮らし方の希望・意向の把握、また今までの生活歴を知ることでその人らしい生活になるよう努力している。困難な場合は日頃の言葉・様子から検討している。家族との十分な話し合いもしている。 (外部評価) 利用者から直接、思いや意向を聞き取ることもあるが、うまく伝えられない利用者もおり、表情や行動で読み取ることもある。また、面会の方から昔していたこと等の情報をもらい日々の生活に反映するよう努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 馴染みの物または家族の写真などを生活の場に置き。馴染みの暮らしになるよう努力している。これまでのサービス利用は一人ひとりの情報をファイルにして本人を把握できるようにしている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 暮らしの現状はわかっているが本当にその方が望んでいる暮らしなのか理解はしていない。心身の変化は顔色を見たり話し合ったりして気をつけている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価) 月一回職員全員でケアカンファレンスを行い、本人家族の希望などを話し合い利用者本位の計画となるよう努力している。また、職員同士利用者が日々の生活の中で変化があった時はその都度話し合っ計画に反映させている。  (外部評価) 2人の担当で2人程度の利用者を担当し、家族の意見を取り入れながらケアプランを作成している。また、3か月毎に見直しを行い、利用者の状態に応じたケアプランになるように職員全員で取り組んでいる。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 日々の生活を書いた介護日誌を個別に記入している。月一回のケアプランを見直しをし、現状にあったプランを作成している。情報を共有し実践に生かしている。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価) 家族の同意の下に職員が受信等の支援を行っている。	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価) 全員ではないが民生委員さんによるお祭りなどに誘っていただき参加している。また、町の美容院にも行っている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	(自己評価) 主治医が月二回往診に来てくれている。緊急時の対応 も出来るようになってきている。本人家族の了解の下、専 門医の受信もできる。  (外部評価) 利用者や家族が希望する医療機関で受診する事を基本 としている。病院受診には職員が付き添い、家族にも 連絡、報告を欠かさず行っている。	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	(自己評価) 毎日主治医の診療所から状態確認の電話が入る。状態 の相談など出来る。看護職員が週一回訪問し健康管 理・相談などの支援をしている。	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できる ように、また、できるだけ早期に退院でき るように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている。	(自己評価) 連携をとっている。	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支 援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合い を行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) 重度化や看取りに対しは家族の意思を尊重し、家 族、職員、医師が話し合いをしている。特に見取りに 関しては家族の前面的な協力が必要であると思われる ため、話し合いをしている。  (外部評価) 入居時に重度化や終末期について家族に確認をし、状 況に応じて主治医や家族、関係者と利用者本位に方針 を話し合っている。また、普段から状態のいい時も悪 い時も家族に連絡を取り関係を築き、看取りの際に協 力してもらえるように関係を構築している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 定期的な初期対応の訓練は受けていないが、常に緊急時に対応できるよう個々の段階で話し合いをもっている。夜勤帯の時の緊急連絡網を作っている。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) まだ一度も実践的な訓練を行っていない。昼夜を通しての避難対策を話し合うにとどまっている。火災訓練は実施したが、地域の方の参加は無い。  (外部評価) 避難訓練や救命訓練等を年2回行っている。スプリンクラーを設置し、常に火災を起こさないよう気をつけている。運営推進会議でも防災のことを議題にしたり、地元消防団に協力を要請する等ネットワークを広げる取り組みをしている。消防署に災害対策や救命救急の研修をしてもらうように計画している。	避難訓練については日頃の訓練が、いざという時に役立つので、体調の優れない利用者の代わりに職員や地域の方をお願いする等し、利用者全員の避難を実施してみる等、今以上に様々な想定をし緊迫感をもって臨んでほしい。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 言葉かけや対応に注意しその方を尊重した声かけをしている。尊敬の念を持ち、対応している。  (外部評価) 失禁等で衣服を交換しなければならない場合は、周りに分からないようにさりげなく声かけし、居室で衣服交換をする等、プライバシーに配慮した対応を全職員ができるよう日頃から心がけている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 本人の思いや希望を出来るだけ表せるようにし自己決定できるよう場面作り、声かけをしている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 職員の都合を優先している部分もある。本人の希望に沿って支援していくよう努力はしている。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 理・美容は出張美容師に来ていただいている。通いながれた美容室にも行けるよう支援している。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 食事の下ごしらえをしていただいている。一人ひとりの好みや食べる力を把握し食事を楽しむことが出来るよう支援している。ミキサー食の提供もしている。  (外部評価) 重度化が進み介助が必要な利用者が増えたため、なかなか職員と一緒に食事をする事ができなくなっているが、可能な限り声かけをし、楽しい食事になるように職員は気配りをしている。また、玉ねぎの皮むき等の手伝いも無理がないよう配慮しながら手伝ってもらっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 一人ひとりの水分量、食事量のチェックをしている。水分量、食事量が確保できるよう努力している。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 一部の人を除き口腔ケアは出来ている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) 身体レベルの低下によりトイレでの排泄からオムツ使用になられた方が以前より多くなった。	
			(外部評価) 利用者の大半が何らかの介助が必要でオムツ使用も増えてきているが、排泄の状況を把握し利用者に応じた排泄ができるよう、職員で話し合いをしながら支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 水分摂取など飲食物の工夫で定期的な排泄が出来るようチェック表などを利用し努力している。	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 個々の希望に応じた入浴がなかなか出来ていない。清潔を保つように声かけなどで入浴してもらえよう努力している。	
			(外部評価) 2日に1回の入浴を基本としているが、希望により毎日入浴をしている利用者もいる。介助が必要な利用者が増えてきており、体調不良等により利用者の希望やタイミングに合わせる事が難しくなっているが、気持ちよく入浴してもらえよう取り組んでいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) 安心して休息が出来るよう支援している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) お薬の商法船をファイルし職員が副作用、用量を理解できるようにしている。服用の確認などチェック表に記入している。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 全員ではないが役割、楽しみごとの支援をしている。おやつや工夫、家事への参加を促す。お花見などの行事なども取り入れている。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 日常的な外出支援は出来ていない。時に希望を聞き戸外に出られる支援が出来るときもある。ドライブや自宅への送迎、個人的な買い物を行っている。	
			(外部評価) 近くのコンビニに散歩を兼ねて買い物に行ったり、居室から出入りできる中庭で日光浴をしたりしているが、必ず職員が付き添うようにしている。また、敷地を出るとすぐ国道があり危険なため、近くのスーパーへの買い物も行事として企画をしている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 職員は本人がお金を持つ事の大切さを理解しているが使うことが困難な方が多いため、職員が管理している。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 電話や手帳の支援は出来ている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 共用の空間に季節の花などを飾り居心地よく過ごせるよう工夫している。光などは遮光カーテンで調整している。室温は空調にて行っている。	
			(外部評価) 共用空間は掃除が行き届き清潔で、食事を用意する音やにおい等の生活感が感じられる。リビングには安定したいすが置かれ、利用者の気に入った場所で寛ぐことができる。また、窓を開けると川のせせらぎや、鳥のさえずりが聞こえ心が和む。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) 利用者同士の思いを把握し気持ちよく過ごせるよう工夫している。	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 写真などを飾ったり、使い慣れた毛布、タオルケットなどを使われたりと本人が居心地良く過ごせるよう努力している。	
			(外部評価) タンスやベッドは備え付けもあるが、使い慣れた物を持ち込み使用している利用者もいる。また、家族の写真やお気に入りの置物等を飾り、利用者一人ひとりの個性を尊重した居室づくりがなされている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価) 建物内はバリアフリーとなっている。廊下・トイレ・浴室には手すりが付いている。タンスに地震時の為ツッパリ棒を付けている。	